

「文学の道 -1,ライブラリー・コートーー」

#### 四、广告的性质

歴史を語る地域が、都市圏にどのような支脈の中へ入り、今後どのような要請の元、どう変化していくか考  
えられるのが、

大規模な開拓ではなく、散発する小規模な計画で既存の経営を覆わせるとすること

ワンルームマンションキョアハウス。都市に開放し、人と人の関係が結み合うような新しいタイプの住居集合住宅開拓の提案。

文京区西片町に分譲する低層集合住宅を物件計画していた。これらは、徒歩圏内に住民の散歩通りのネットワーク(1)といふありあを繋ぎながら、老朽化したフルームマンションの改修と空き地の開拓とするものである。



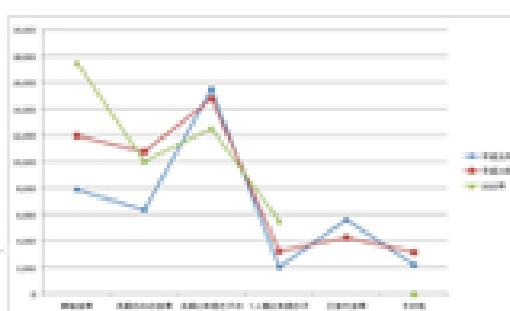
南京工大字大字版

1 11

|                | 施設面積(延床・平地面) |        |        |         | 構成割合(延床・%) |       |      |
|----------------|--------------|--------|--------|---------|------------|-------|------|
|                | 平成元年         | 平成20年  | 増      | 2000年   | 平成元年       | 平成20年 | 増    |
| 面積             | 38,413       | 47,957 | 9,544  | 約17,500 | 100        | 100   | 0    |
| 面積割合           | 100.0%       | 100.0% | 100.0% | 約17.5%  | 100        | 100   | 100  |
| 実施面積のうちの割合     | 4.03%        | 10.7%  | 6.7    | 約10,000 | 100        | 23.4  | 6.6  |
| 実施と未施の手ののみの割合  | 15.4%        | 14.7%  | 0.6%   | 約12,300 | 20.3       | 20.7  | 0.4% |
| 1人当たり面積の手のみの割合 | 1.00%        | 3.20%  | 2.20%  | 約5,400  | 5          | 3.2   | 3.2  |
| 三世代代用間         | 5,500        | 4,029  | -1,471 | 約5,400  | 54.2       | 8.8   | -5.6 |
| その他            | 2,066        | 3,056  | 1,990  | 約4,600  | 5.5        | 8.5   | 1    |

• 100 • 中国古典文学名著

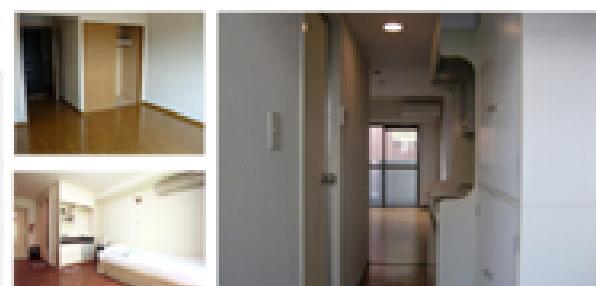
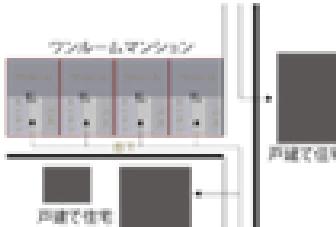
1996-1997 年度第 1 季度第 1 次定期評議會



1970年を以て以降、日本は人口減少の時代を迎えるとしている。2010年までに見れば、一時的で人口が過盛だとされるが、この20年後には常に世界の成長率に高い、成長率と人口率が並んで、高齢化率は上昇を続け、日本の成長は世界成長を超過した。しかし内需市場から他の成長市場を脱して、車両販売量は黄連二郎が頭へ乗っかっている。上記のリストから見ると、平成20年日本の成長率は4.0%で世界平均と2009年の成長率を並んで1.1%と並んでいる。その中で、「自動車業」（一八八車・車両）は成長率の4.6%で世界平均で平成20年の1.1%と世界平均での成長率1.5%を遥かに上回っている。2009年では約173万台の車両への成長率を手掛ける。一方、子供車と車両化が車両市場を奪う同時に、「ひとたまねぎ」という車両を車両車両のグランツーリング・グランツーリング車両

## 2 ワンルームマンションとシェアハウスの現状

ワンルームマンションはキッチンと居室が社宅小手一括貸してしめ取扱いでもある。人間関係は一つの部屋の中で手てての生活を手手、寂寥も寂寥へ。隣の部屋も隣だ。1人暮らしにうつづく感覚である。しかし、隣は寝ねつけないでいるので、叫営の度々と隣の部屋から寝ねると気にならぬ。手して、隣の部屋のモーター音が寝ねる間にうとうとした。



2020-2021 学年第二学期

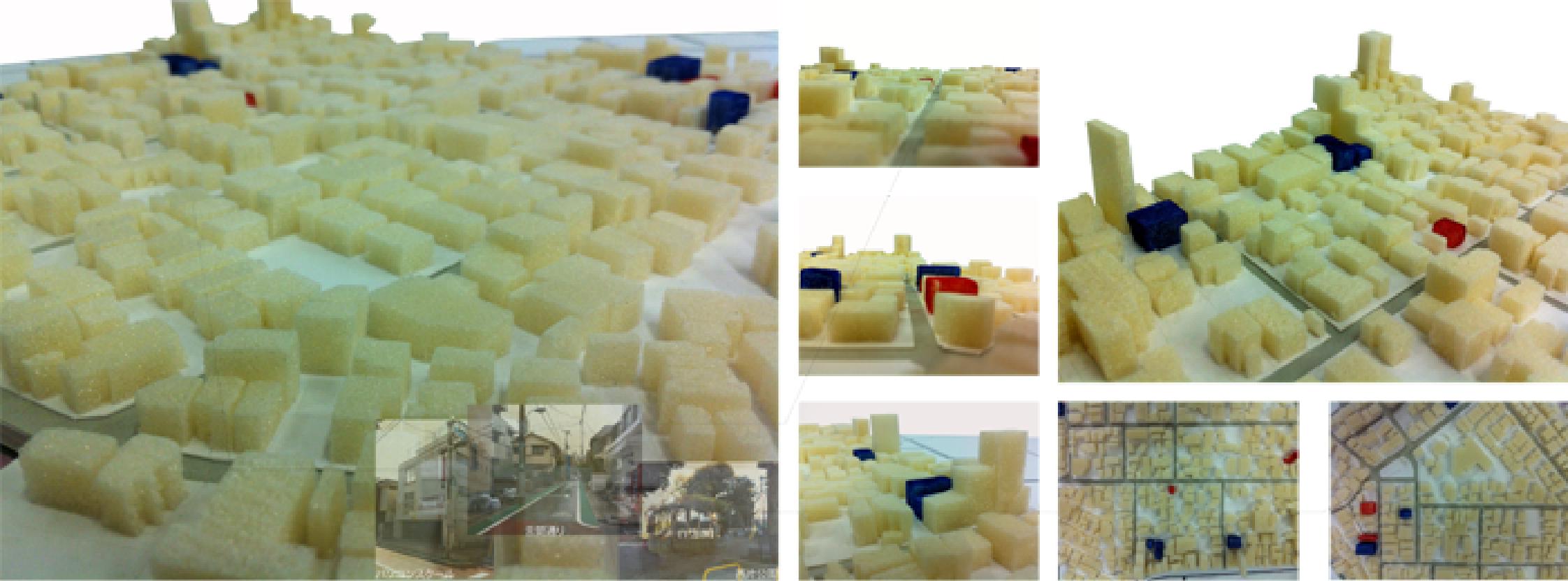
（三）在本行的存单、存折上，不得用铅笔填写或划线，以免损坏存单、存折。

在大腦中，我們會把過去的經驗和現在的情境進行比較。

2000

この個人のアカウントページで登録情報を変更しているため、登録情報が変更される場合は、アカウントページ





### 3 西片町について

西内町は文部省の辻延平舟に位置する。標高約20mの台地上は江戸時代末期では武家町であった。  
明治から昭和初期にかけて福徳稻山堂と阿部家の邸宅敷地、高級住宅地として開発した。その間に、明治5年西片町の誕生と、時代の変遷に対応して阿部家の邸宅を廃し地販し家の経営、学校教育などの事業を始めた。  
また、慶應大学が近隣にあり、医療や文部などの文部省の長い歴史地である。そのため、西内町は静かで、喧嘩が少なく、都市の噪音の届かない閑静なところである。町内には福徳通といい瓦葺きの街並みが風情に残り入れられた。住民階層の交流は豊富で、しかし日常生活における近隣同士との交流は少なくなっていることは問題とされている。そして、町内には大きな商店街は出店していないが、駅前の駅前通りが中心で、歩行者空間である。  
他に、車両走行が急増している影響を受け、町内においても2000年からワブルームマッピングの結果が確認している。今後更に手の施された防護が続いていると思われる。これから先、もともと戸建て住宅を中心での生活とワブルームマッピングによる問題に入ら替わる人々とのコミュニケーション機能性化することが解決すべき問題となる。



### 4 サイト

現地に応じて計画案は東京都西片町にある既設したものとする。実際の土地割合に即し、面積をしたタブラーはマンションの街並として改善することである。もしくは既存の空き地において新たな建築をすることになる。

ここでは一つの計画案を示すが、建築を行ふこの構造物は男女学生向けの施設を置いていたらしい。以前は建物の土地競争しがちだったが、現在はコンクリートの壁で教壇と机椅子(通称)とを設ける音楽室も開かれたり、既存の面積以上は必ず分譲面積の東京大学と私道の間で二段階の駆けあがりがある。そして、駅前大通りそいの路盤にされた道路みにたいし、町内に歴史的な木造住宅とコンクリート造のマンションがひっそりと建っている。敷地の東側はJR線以上の高層マンションに囲まれ、駅周辺は非常に面倒くさい住環境を感じられる。



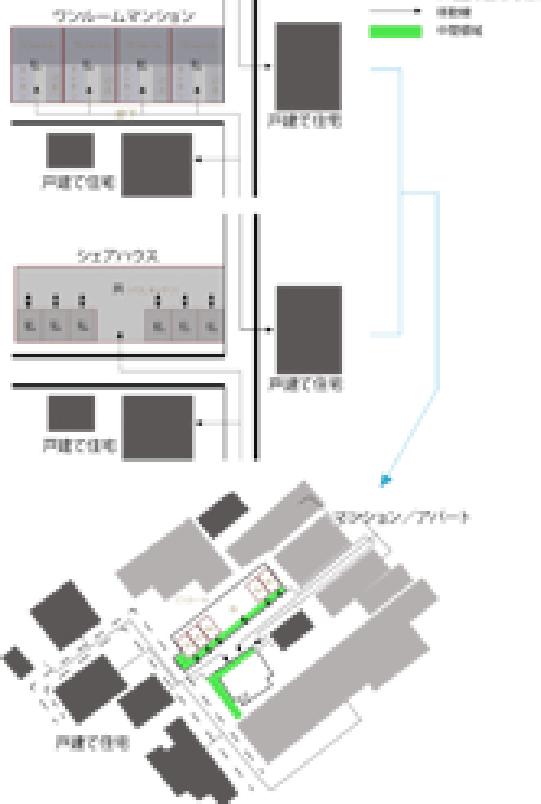
# 5 提案1の敷地選定

## 敷地と写真

周辺地図：第一緑住戸専用地図  
面積:実測積 421.3m<sup>2</sup> (計測積の面積) 16.4m<sup>2</sup>  
1階床面積: 面積=84.5m<sup>2</sup>, 高さ=3.74m, 面積131.8m<sup>2</sup>  
2階床面積: 面積=114.8m<sup>2</sup>, 高さ=3.3m, 面積158.2m<sup>2</sup>  
3階床面積: 面積=114.8m<sup>2</sup>, 高さ=3.3m, 面積158.2m<sup>2</sup>  
建築面積: 面積=111.5m<sup>2</sup>, 面積=71.9m<sup>2</sup>, 面積205.4m<sup>2</sup>  
敷地面積: 344.85m<sup>2</sup>  
建物間隔: 一般地→5000m, 街道→5000m



## プログラム



## 6 コンセプト

文字の蔵が心遣一年間頃頃  
「希望とは、元々あるものも言えぬし、ないものとも言えぬ、それは地上の道のようなものである。生き地上には道はない、歩く人が歩くなれば、それが道になるのだ。」という言葉は中国人の文豪魯迅先生の名言である。

だとすると、希望と道戸は同時に中間概念として、人間の思想と行動を表している。ただし、希望はイマジナリーなもので、道は実在的なものである。そして文字は、希望と道二つの中間概念の統合概念である。それは常に希望や人間の感情・思想を表現するだけではなく、人間概念の発達や心開拓に繋がるものである。

本提案においては、「文字の蔵が心遣」と「ライブラリーコート」などを、集合住宅において、実現的なものとして実現していくことを、道戸では二つある、一つ目はリビングポーチ、もう一つはカフェラウンジである。両体の中では下段の階層で実現する。

## 7 設計概要

### ライブラリーコート(模型写真4による)

本画面においては、敷地の特徴的な環境によって、東西を跨ぐ中央の壁は西側町ないの壁や路地との外部の駆込歩道などを通連している。この壁を集合住宅の中庭として町内外の人々の歩く道としてだけではなく、町内交流の場として役立てる。例えば、この道を複数の入り口や、後退するカーブの本體から本を手に取り図書をする人々が窓を開か合い、図書から始まり交説が生まれる場所である。

### リビングポーチ(模型写真6による)

リビングポーチはアメリカの独立戸建を参考に西側に面して見える部屋である。その機能は中庭概念として内部空間を外気に開放させると同時に、外部空間を内部へと縮めて閉じ、人々がくつろぎ体験を増すための役割も大きい。裏面ではライブラリーコートを通し、1階から3階までをポーチとして計画している。ブルームタイプの室内が個人空間として独立しているが、ドア前のポーチは各戸のくつろぎの場として利用できる。入居者の児童や近隣住民の遊びや giochi をも誘ってのんびりと遊ぶこともできる。

### カフェラウンジ(模型写真2による)

ライブラリーコートを挟み、住棟の対間に階段を設いている。1階の部分にはカフェラウンジを計画する。ラウンジの配置は、6つのテーブル一列に配置している。裏面の廊下にはキャスターがついており、使用状況に応じてフレキシブルなレイアウトすることができます。また本棟前のデッキには、二人用の椅子座卓が配置され、入居者も来訪者も座卓から自分で好きな本を選び、めったりと読書しながら気持ちよく会話を楽しめる。距離の問題は原則として入居者が使う私的空間であるが、時に入居者と時間になった外側の住人も気軽に立ち寄れて交流することができるようになっている。2階は屋上に二重屋根というコモンスペースとして利用される。

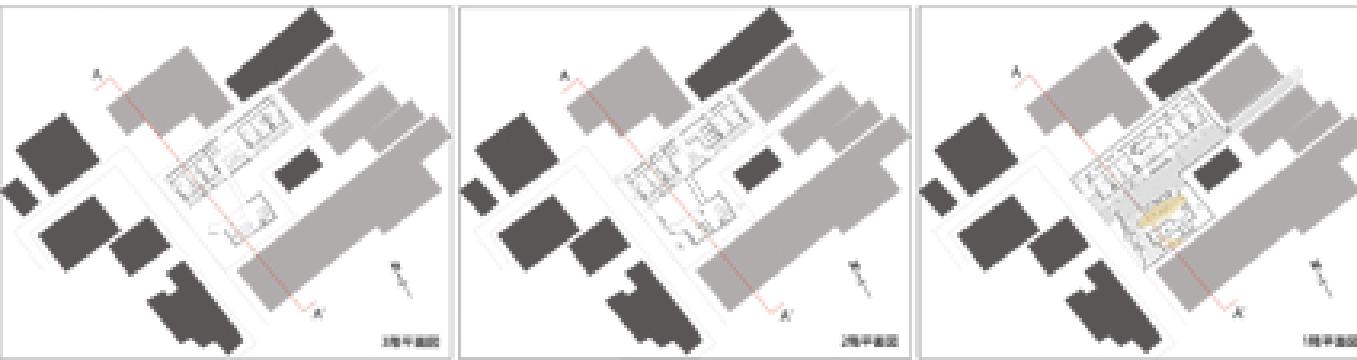
## 8 模型写真

### 提案1の模型

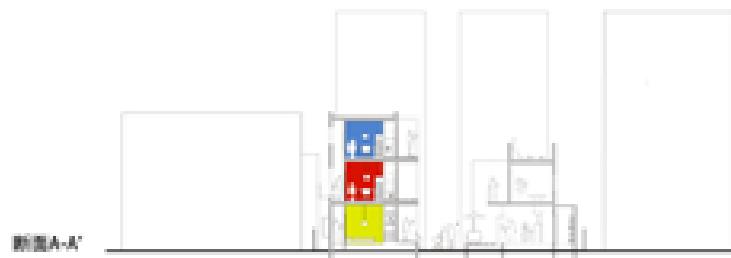




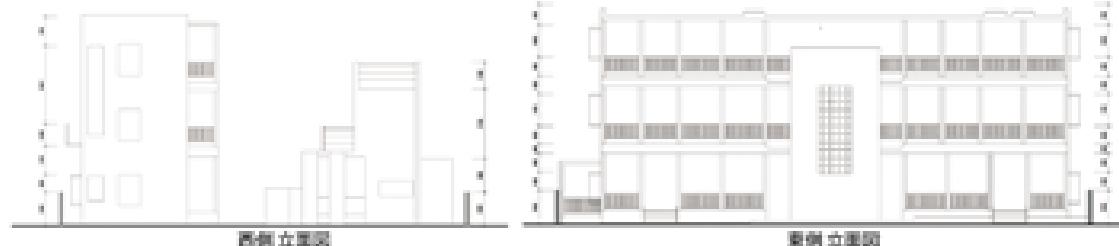
9 平面図



10 断面図



11 立面図



12 本の管理

#### □ 本の管理ルールとネットワーク

この提案においては本種を配置しておいた上に、図書を保管するためにもう二箇所がついています。しかし、これは単純な図書配置の計画ではない。この提案では図書・図書館の在庫で図書の集合場所の図書室一覧に入居者だけで利用されるルートを割り出し、図書の貸し出しができる。しかし、この貸し出しルートはそれぞれの範囲が形成されたネットワーク圏内に許可される。

本の貸し出しルートは図書室が住民の嗜好を予測し、それを組み、そして、入居者や近隣の人々の行動により、色々な書籍をまとめられる。

本のまとめ分類――主に文学の書籍。他には雑誌、児童誌物、専門の書籍など

本の貸し出しルートは図書室では本を借りる際は利用者カードが必要である。どこでは利用者カードは必要ではなく、利用者は認明書類を出し、住所を登録するだけである。

この提案の特徴、他の提案計画に比べても同じになります。これをネットワークのままで区内向外に都市に繋げて広げていく。



#### □ 住民の散歩通りのネットワーク

このふたつの「ライブラリー、コート」、「リビングルーム」、「カフェラウンジ」のセットを持つ集合住宅が、四角形全体に分散配置される。各種において、ライブラリーは、それは図書室が住民の嗜好を予測し、それを組みながら、やはり入居者の嗜好を一貫に行なせる。入居者や近隣の人々の選択する書籍により、絵画し、青色であるものとなってゆくであろう。

この特徴あるライブラリーは前を意識する可能性を持つ。つまり、外壁からの入居者や近隣住民の無いところとしての役割をもつ。このようなライブラリーは、やはりは住民の嗜好の変化を予測する。またのネットワークを構成。異なる方向の保健を説明することとしており、町内のコミュニティ更に都市を変える可能性性である。

—— 散歩通りのネットワーク

○ 移動図